

広報伊達 152

発行日 令和7年12月12日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 五十嵐 修

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》



伊達の底力「伊達は一つ」「強い伊達」

伊達地区小学校長会副会長

渡邊 かおり

(伊達市立伊達東小学校長)

大変ありがたいことに、全国・東北・県それぞれの校長会研究協議会に今まで参加をさせていただきました。いずれの会においてもそれぞれの目的と特長があり、参加をした後には「こんな実践もしてみたい」「あの実践は本校でもおもしろそう」「わたしの手法には発展性がない」など、自分の学校経営について様々なヒントやアドバイスをいただき、時には自分の取組のまずさに気付かされました。今年8月に開催された福島県小学校長会研究大会安達大会においても、研究課題に基づいた各支会の研究発表そして協議に参加する中で、校長として先の見通しをもつ重要性を再確認するとともに、地域や学校実態を生かした特別支援教育やキャリア教育の推進について学ばせていただきました。

県内の校長先生からは、研究全体を推進してくださった地区研究部長 花輪校長先生、実践を取りまとめ他地区へと発信してくださった第9分科会研究推進員 青柳校長先生をはじめ、伊達支会の結束の強さやともに高め合おうとする研究実践に大きな称賛を受けました。伊達支会は所属校長数が県内で5番目に少ない支会ですが、「伊達は一つ」「強い伊達」のスローガンどおり本当に素敵な支会で、そこに所属させていただいていることを改めて嬉しく感じた時間でもありました。

しかし、研究協議会の休憩時間のことです。県南地区の校長先生に呼び止められ、掛けられた言葉は、わたしの想像を超える言葉でした。

「伊達支会は、この研究を今後どうするつもりですか。県内、多くの校長実践をみてきたけれど、

ここまで筋が通っていて汎用性が高く、研究のための研究ではなく実践に直結する研究はみたことがない。令和9年の全国大会では、福島県代表として他県の校長先生にも披露して欲しい。」

令和6・7年度研究として取り組んできたアセスメントシートを活用したキャリア教育の研究。このアセスメントシートは令和4・5年度に環境教育の推進を研究していく中で生まれ、見直しながら伊達支会独自の実践シートとして開発・発展してきたものです。キャリア教育のように教育界で言われている「〇〇教育」の数は、現在160にもおよぶと伺ったことがあります。そんなにも多くの教育を行う学校の経営を司る校長の役割は…。校長の役割を、少しでも具体化し視覚化しマネジメントしながら実践できるようにしたい。そんな願いを込めたアセスメントシートも、現在第2版。まさに「継続は力なり」です。研究課題が異なっても、校長の役割に特化し「誰に対して・どのように働きかけ・どう評価するか」を明確にしてきたアセスメントシートが、今後も伊達支会の研究でさらにバージョンアップし、他支会・他県の校長先生に大きなヒントを与えるものとなれば…今後の研究に、大きな夢をもたせてくれた言葉でした。

変化の激しい社会に求められる教育では、これからも「〇〇教育」が増えていくことでしょう。そんな時、学校組織としての最終判断を下す校長の一つのアシスタントになる研究を、これまでもこれからも伊達地区小学校長会は、「伊達は一つ」「強い伊達」として続けていきたいと思います。

《 特 別 寄 稿 》

令和7年度福島県小学校教育研究協議会音楽科研究部会
伊達大会を振り返って伊達地区小教研音楽科研究部長 佐 藤 隆 之
(伊達市立小国小学校長)

10月15日、国見町観月台文化センターを会場に令和7年度福島県小学校教育研究協議会音楽科研究部会伊達大会が開催されました。

今年度は、県小教研第Ⅸ期の1年次ということで研究主題「多様な音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら音楽に親しむ子供の育成」のもと、研究協議会では4地区（安達・岩瀬・耶麻・いわき）の代表発表をはじめ、グループ協議を通して活発な意見交換と情報共有が行われました。中でも、「児童同士の学び合い」と「児童と音楽の豊かな関わり合い」とおして、豊かに学び合う子どもの育成を目指していく必要があることを参会者で確認し、それぞれの地区で実践していくことになりました。

また、伊達地区としては、本物の芸術に直接触れる感動体験を題材に位置づけ、多様な音楽活動を展開させることにより、子どもたちの創造性豊かな表現力と感性を培い、生涯にわたって音楽を楽しむことのできる児童の育成に向けた研究を3年間進めていく計画を紹介しました。

1年次：本物に出会う体験

2年次：体験を関わらせた多様な音楽活動

3年次：体験を通して楽しむ音楽活動

午前の部の研究協議を総括した指導助言を福島県教育庁義務教育課指導主事 白岩聡子 様にお願ひしました。

授業改善に向けて、まずは、育成したい資質・能力を明確にし、音楽を形づくっている要素を精選することで、児童を見取り、評価できるようにすること。また、児童の感想を音楽的な見方・考え方を使って明確にすることが大切であること。さらには、振り返りを価値づけ、次の問いに繋げる必要があること等、示唆に富むお話をいただきました。

午後の部は、「本物に出会う体験」という伊達地

区としての1年次研究との関連を図り、『世界の音楽旅』をテーマにした演奏・講演を企画しました。

講師には、元東京交響楽団首席クラリネット奏者であり、日本を代表するバグパイプ演奏者でもある十亀正司氏を招聘しました。スコットランドの民族衣装であるキルトに身を包んで登場した十亀氏が奏でる力強く独特なバグパイプの音色が会場に響き渡り、スコットランドの叙情的な雰囲気を楽しむことのできた貴重な鑑賞の機会となりました。今回の演奏は、参会した会員の皆様に鑑賞していただいたほか、国見小学校の3・4学年児童にも鑑賞してもらいました。本物の芸術に直接触れた子どもたちの表情や動き、言葉による表現などから、本物に出会うことの大切さを実証したいと考えたからです。その結果、表情豊かに聴き味わっている子どもたちの姿を見取ることができた演奏会になりました。

伊達地区小学校長会の皆様のご理解とご協力により、各校から1名以上が音楽部に所属し、音楽部員を中心とした伊達大会実行委員会を立ち上げ、1年次の準備と大会運営ができましたことに感謝申し上げます。2年次につきましても、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



《 特 別 寄 稿 》

第77回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会を振り返って

国見町立国見小学校長 五十嵐 隆 之

「福岡へよおきんしゃったね!」で始まった福岡サンパレス・福岡国際会議場での福岡大会でした。

1日目は、文部科学省講話と、約2300人の校長による13分科会での研究協議が行われました。講話では、次期学習指導要領の改訂の方向性は「構造化」「柔軟化」「探究」「評価」であり、最終的に「深い学び」の実現を目指すものであるとし、そのためには児童が獲得した知識・技能等を「CONNECT」(つなぐ)のための「OUTPUT」(活用・発揮)の積み重ねが重要であると話されていました。第2分科会では、学校経営「組織・運営」について、群馬県と宮崎県の2校の研究発表をもとに、熱心な協議が行われました。「学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり」「組織を活性化させるための具体的な方策の推進」の視点で、協議内容を次の3点にまとめました。

①学校経営ビジョンの構造的理解の推進と活用

- ・ビジョンを構造的にも視覚的にも分かりやすくして、教員や地域、児童などに広く浸透させ、自分事として行動できるようにする。

②学校経営ビジョンの実現プロセスの支援

- ・ビジョン実現のために、教職員が自発的に行動するように校長がファシリテーターとなって、様々な取組を推進し変革を進める。

③教職員チームによる課題解決サイクルの実現

- ・校長主導から、学年や校務分掌などのチームが自律的に課題解決サイクルを回せる状態に移行させ、持続性と発展性を高めていく。

2日目は、サグラダ・ファミリアの彫刻家である外尾悦郎氏の講演でした。印象に残ったのは、「故郷を思う強い気持ちがあれば遠い世界でも活躍できる」「困難は分割して対応せよ!という風潮があるが、分割された困難は1つの方法で総合的に解決できることもある」「人を幸せにすることでしか、人は真の意味で幸せになれない。それを学ぶプロセスが教育である」という言葉でした。

玄界灘の潮風に…♪が鳴り響く福岡ドームの光を背に受け、飛行機は北に向けて飛び立ちました。

第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会を振り返って

第9分科会【自立と社会性】

桑折町立伊達崎小学校長 青 柳 俊 宏

第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会を終え、この貴重な発表の機会を与えてくださったことに心より感謝申し上げます。

第9分科会《視点2》のテーマは、「基礎的・汎用的能力を育成するキャリア教育の推進」でした。研究を通して、予測困難な社会を生き抜く子どもたちにとって、いかなる状況下でも自ら課題に向き合い、解決に取り組む力を育むことが、学校教育の大きな使命であることを改めて認識しました。

研究協議では、本実践の手立てとして活用した伊達地区独自の「アセスメントシート」について、県内の各学校の校長先生方より高い評価をいただきました。特に、研究の全体像を俯瞰し、校長の働きかけや研究の視点を見える化し、PDCAサイクルを確実に機能させるという点が、多忙な学校現場における研究推進の極めて有効なツールとして大いに賞賛されました。伊達支会全体の研究

に対する高い意識と実行力も評価をいただいた点です。

一方、質疑応答の中では、基礎的・汎用的能力の伸張を評価するアンケートについて、「4つの観点別に細かくではなく大きな切り口で捉えた理由」に関する質問がありました。

この質問は、校長として、働きかけによる児童の変容をどの位置から捉えるかという評価の視点について、改めて気づかせていただきました。

今後は、キャリア教育の推進をさらに深化させて、子どもの社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力、態度の育成のため努力を重ねていきたいと思います。

最後に、伊達支会の代表として発表の大役を務めさせていただきました。今回の発表までに第9分科会の多くの先生方に多大なご協力とご指導を賜りました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

《先輩より》

ビストロのご褒美

前伊達市立保原小学校長 佐々木 透

しばらく前になりますが、採用2年目の先生方が、道の駅「伊達の郷 りょうぜん」で企業等体験研修を行っていました。ちょうど桃の最盛期の頃で、開店前から長い行列ができていました。

暑い中、地元産の甘い桃を求めて並ぶお客への丁寧な対応から真夏の研修が始まります。学校で「先生!」と呼ばれている時より生き生きしている?のではとってしまう商売上手なお兄さん、シェフ顔負けのセンスと腕で次々と注文をこなす『釜めし』作りの達人、人気ジェラート店では、お似合いのエプロン姿で接客中の数学の先生などいずれの研修生からも、あふれるパワーと「伊達の郷」の従業員の一人という責任感がひしひしと伝わってきました。

先生たちは「はたらく」ことの意義や、教員として大切なことを改めて学んでいるようでした。そんな様子を傍らから眺めていた私は、「伊達の宿場ビストロ」に並ぶ「伊達鶏」をはじめ、奥の方から漂う焼き立てパンの甘い香りや、リズムよく聞こえてくる「餅つき機」の音色など、道の駅が醸し出す「伊達食パワー」にすっかり魅了されていました。

汗だくで2日間の研修を終えた18名の売り子たちは、今度は客として車を駐車場に止め、感慨深い面持ちで足早に入口へ向かっていました。

どうやら、猛暑に負けずに精一杯頑張った自分へのご褒美(お土産)をたくさん買って帰路に就いたようです。

笑顔と他者貢献

前国見町立国見小学校長 佐藤 政 俊

伊達地区小中学校長協議会の校長先生方には、長い間たいへんお世話になりました。ありがとうございました。多くの学びとご支援、ご協力をいただき、学校経営を行うことができました。

私は現在、暫定再任用教諭として梁川中学校に勤務しています。職務は拠点校指導教員として初任者研修の指導です。本校の他にも伊達中学校と桃陵中学校の初任者にも指導をしています。それぞれの学校の校長先生方には現在もたいへんお世話になっています。

私は「世界一笑顔の似合う学校作り」をモットーにして、学校経営を行ってきました。子どもたちや先生方の笑顔が学校にあふれ、それが家庭や地域にも広がっていくことを目指してきました。

そして幸いにも最後に地元の国見小学校に勤務することができました。ここでは「人の役に立つ人間になる」すなわち「他者貢献」を学校経営の柱にしました。人の役に立った時が一番の幸福であると考えたからです。自分本位の笑顔ではなく誰かの役に立った時の最高の笑顔を目指したのです。他者貢献ができ、人の喜びが自分の喜びになる大人になれば、地元の国見町もさらによくなるという願いを込めて努めた3年間でした。仕事も他者貢献が基盤であり、もっと早くこのことを大切にして教育に携われていたらと少し後悔もあります。

校長先生方におかれましても、今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。健康第一で。

編集後記

予測困難な時代と言われていますが、感染症対策の後に、熊対策が必要になるとはだれも思っていなかったと思います。自然との共生が様々な原因でバランスを崩し、互いに安全・安心と言える環境ではなくなっているということなのではないでしょうか。持続可能な社会を目指し、これからの予測困難な時代を力強く柔軟に切り開いていく子どもたちを育成するため、今後も「伊達は一つ」のもと、伊達地区校長会が一致団結し、打開策を講じていければと思います。ご多用の中、玉稿を賜りました先輩の校長先生方をはじめ、伊達地区の校長先生方に心より感謝申し上げます、152号をお届けします。